

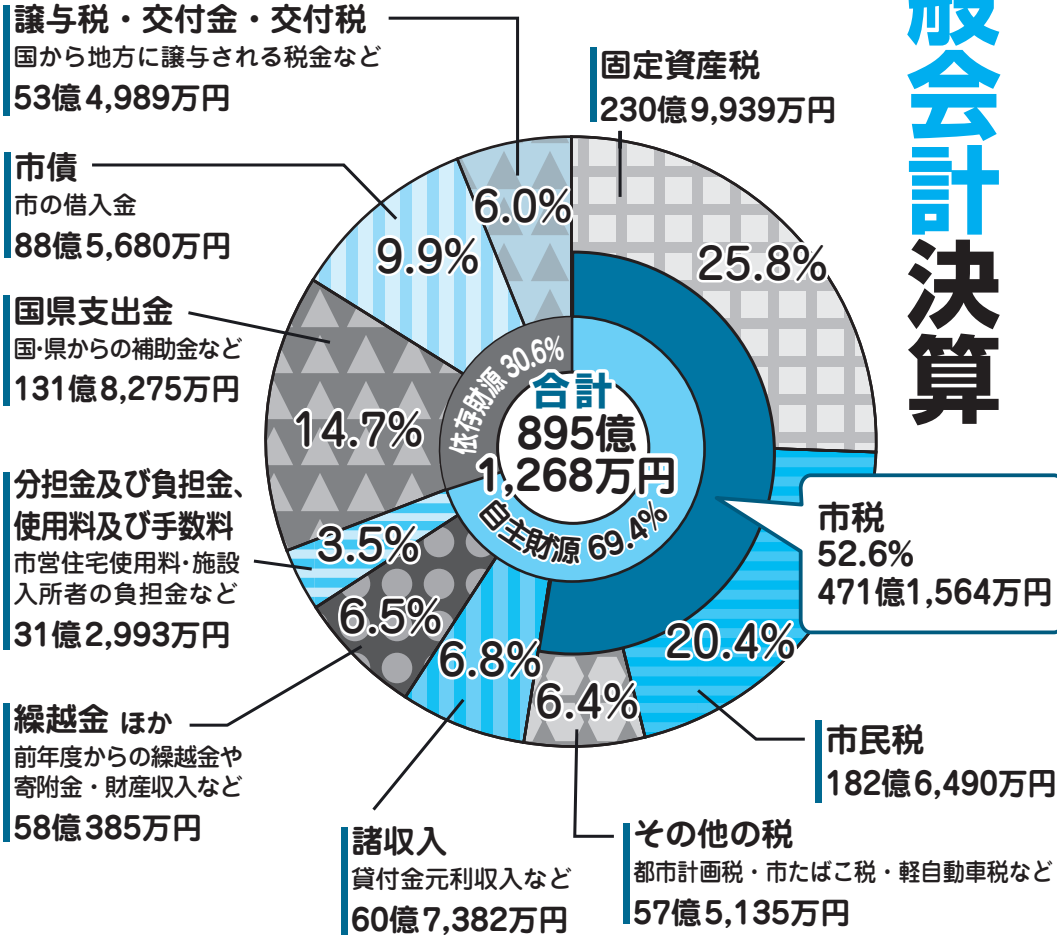
平成21年度

決算報告

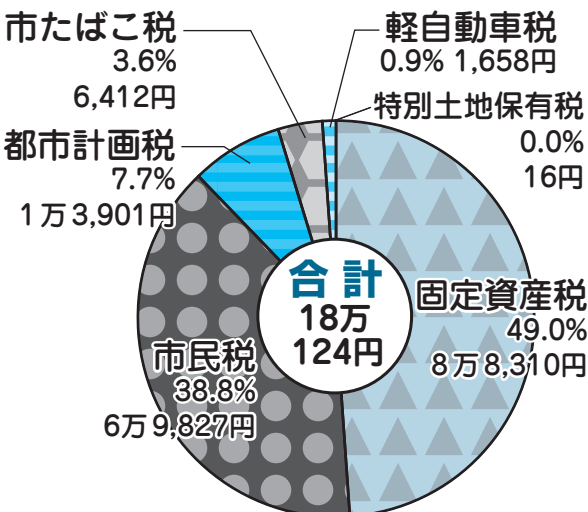
富士市の財政事情は？

一般会計決算

歳入



市税収入を 市民1人あたりに換算すると…



歳入の約5割は皆さんの市税

歳入の約5割を占めるのは、市民や企業の皆さんから納めていただく市税です。平成21年度の市税の決算額は約471億円で、前年度から約2億円の減少になりました。

これは、旧富士川町と合併したことにより、個人市民税と固定資産税が約10億円増加した一方、景気後退により法人市民税が約12億円減少したことが主な要因に挙げられます。

※市民1人当たりの金額は、平成22年3月末現在の富士市の総人口（外国人を含む）26万1,573人をもとに計算しています（3ページも同じ）。



用語の説明	歳入	歳出	自主財源	依存財源	市債	国県支出金
年度内に入ってきたお金。年度内に使ったお金。	市が独自に徴収することができるお金。市民税、固定資産税、使用料や手数料など。	国や県などから入ってくるお金。国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲与税、自動車取得税交付金、市債など。	市が大きな建設事業などを行うために、国や銀行などから長期にわたって借りるお金。	特定の事業の財源として、国や県から交付されるお金。		

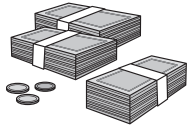
歳出



歳出のトップは民生費

歳出を目的別に見ると、福祉関係の費用である民生費が23.3%を占め、最も多くなっています。

民生費は、本格的な少子高齢社会の到来を受け、今後も高水準で推移することが見込まれます。



公債費

市債などの償還金などに
79億9,200万円

労働費

働く人のために
49億4,186万円

消防費ほか

消防・防災対策などに
65億9,966万円



衛生費

保健医療や生活環境などに
92億5,533万円



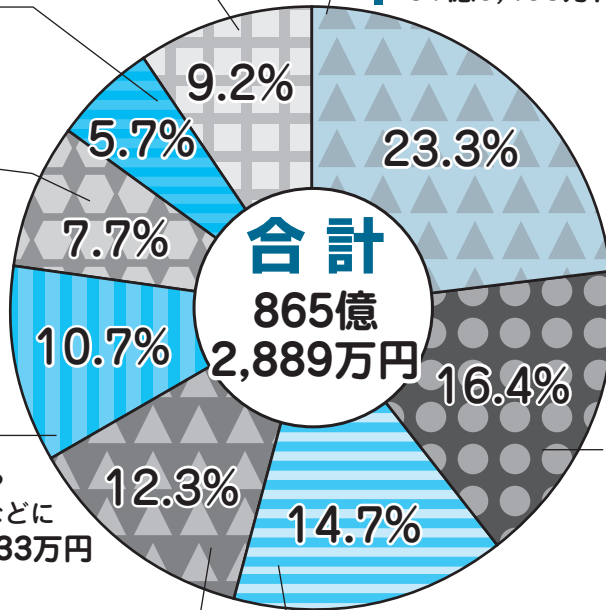
教育費

学校整備や社会教育などに
106億4,389万円



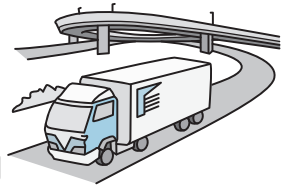
民生費

社会福祉などに
201億6,463万円



総務費

市民生活や市の管理などに
142億837万円



土木費

道路や河川などの整備に
127億2,315万円

特別会計決算

歳入 499億 81万円
歳出 491億9,558万円

特別会計区分	歳入	歳出
国民健康保険事業	239億 685万円	236億2,597万円
老人保健医療事業	3,958万円	3,421万円
後期高齢者医療事業	33億8,960万円	33億7,826万円
介護保険事業	128億5,031万円	127億3,443万円
下水道事業	75億8,573万円	75億7,161万円
新富士駅南地区土地区画整理事業	11億6,155万円	11億3,881万円
第二東名IC周辺地区土地区画整理事業	1億4,106万円	1億3,756万円
墓園事業	1億4,404万円	1億4,404万円
駐車場事業	8,092万円	7,673万円
公用地先取得事業	1億 382万円	1億 382万円

市には14の特別会計がありますが、表中では財産管理特別会計（全4会計）を省略してあります。

企業会計決算



水道事業

事業収益合計 29億4,929万円
事業費用合計 26億5,179万円
純利益 2億9,750万円

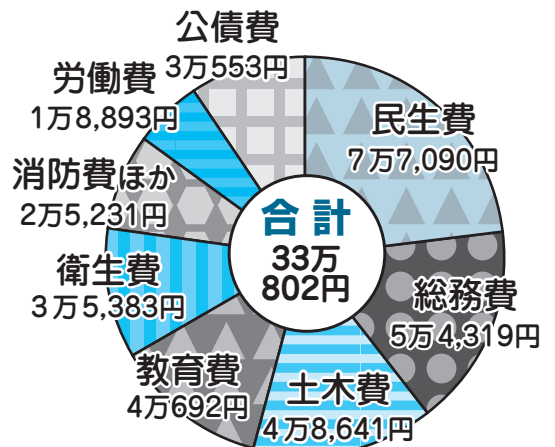


病院事業

事業収益合計 123億9,448万円
事業費用合計 126億 184万円
純損失 2億 736万円

歳出を

市民1人当りに換算すると…



国や県からの補助金などを活用して、市民1人当たりの市税収入の1.8倍以上の行政サービス（支出）を提供しました。